

要 望 書

南九州地域の拠点港湾「八代港」の整備促進について
～地域経済の活性化のために～



令和3年11月28日
八代市ラッピングコンテナ
お披露目会の様子



令和4年6月7日
CFS 倉庫完成記念式典の様子

令和4年7月

熊本県八代市
八代港整備・活用促進期成会

八代港の整備につきましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

港湾は、我が国の経済や国民生活を支える極めて重要な社会基盤です。

また、気候変動の影響により年々、激甚化・頻発化する大規模自然災害に屈しない強靱な国土づくりのため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」をはじめとする取組みを着実に実施することが必要です。

更に、感染症の拡大防止と社会経済活動の早期回復の両立を図るとともに、ウィズ・コロナにおける持続的経済成長を実現するため、港湾の整備・振興や予算の確保が必要です。

さて、現在の八代港の状況としましては、コロナ禍における国際物流の混乱等の影響はあったものの、昨年1月に就航した台湾航路の効果により、令和3年の国際コンテナ貨物取扱量は過去最高を記録しました。加えて、今年7月から供用開始したCFS倉庫等、コンテナターミナル付帯設備の充実も進んでおり、熊本県下最大の貿易港として成長を続けております。

更に、TSMC (Taiwan Semiconductor Manufacturing Company Limited) の本県進出に伴い、台湾からの建築資材や原材料等の輸入貨物増加も見込まれていることから、国内半導体産業の集積地として今後大きく発展を遂げる本県において、八代港は物流の玄関口として更なる成長の可能性を秘めております。

このような中、八代港の水深14m航路は未だ計画水深が確保されていないことから、現在、大型船舶の入港に際しては、他港で貨物を下ろして入港する「喫水調整」等の輸送コスト増という深刻な課題が解消されておられません。

また、世界的な船舶の大型化傾向も顕著であることから、このような輸送コストの削減が図られなければ、今後の利用減少に繋がりがかねないことと危惧しているところであります。

このような現状から計画水深が確保され、大型船舶が安定的に入港できることにより輸送コストの削減ができれば、背後立地企業の

競争力強化が図られ、八代港の利用増加に繋がるとともに、新たな設備投資や雇用創出、消費者への利益還元等、本市域にとどまらない広範な地域経済活性化等の効果が発揮されることとなります。

また、近年、原木輸出が急増していることに伴い、原木ヤード不足が顕著になっており、関係者からもこれ以上の受け入れは困難な状況にあるとのご指摘を多く頂いております。また、原木ヤードが点在していることから、非常に非効率なふ頭運営となっております。

併せて、外港地区に現在建設中であり、県内最大級となるバイオマス発電所が令和6年に稼働予定であることから、燃料である木質ペレット等の取り扱いが増えることとなり、既存岸壁での取り扱いが非常に困難となることが想定されています。

今後は、本市や県南地域はもとより、南九州地域の国際拠点港として更なる利用促進が期待される中、より一層の機能強化や新たに完成したCFS倉庫の利活用に取り組んで参りたいと考えておりますので、水深14m航路の早期完成及び八代港港湾計画に沿った加賀島地区水深12m岸壁の事業化検討について、ご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

一、水深14m航路の早期完成を図ること。

一、加賀島地区水深12m岸壁の事業化について検討を行うこと。

令和4年7月

八代市長 **中村博生**

八代港整備・活用促進期成会長 **松本喜一**